

## 第2次

概要版

# 裾野市歯科保健計画 中間評価



計画期間  
令和3年度  
▼  
令和13年度

令和8年3月 裾野市

### 計画の基本理念

歯と口腔の健康づくりは、生涯、健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たし、食べる喜びや話す楽しみ等のQOL(生活の質 Quality Of Life)の向上につながります。

歯と口腔の健康は全身の健康状態にも大きく影響します。そのため、いつまでも自分の歯でしっかりと噛み、食べることができるよう、市民一人ひとりが歯と口腔の健康づくりに取り組むことを目指し、歯科口腔保健を推進していきます。

すてきな笑顔 そろった歯 のこしていこう  
8020

### 計画の期間

計画の期間は、令和3年度(2021年度)から令和13年度(2031年度)までの11か年です。中間年度の令和7年度(2025年度)には中間評価を行い、計画の進捗状況等を踏まえた見直しを行います。令和13年度の最終年度には最終評価を行います。

## 計画策定の背景と目的

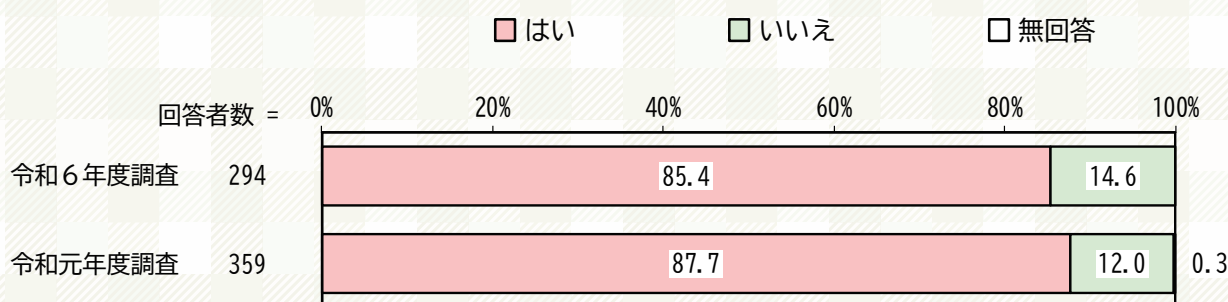
本市では、生涯を健康で暮らせる健康文化都市を目指し、令和2年度に健康・食育・歯科の3計画を一体的に策定しました。歯科保健計画では、「すてきな笑顔 そろった歯 のこしていこう 8020」を掲げ、市民一人ひとりが歯と口腔の健康づくりに取り組むための施策を展開しています。

国は2024年度から「健康日本21（第三次）」を推進しており、新たな視点として女性特有の課題やライフコース別の支援、ICTの活用等が盛り込まれました。本市もこれらを踏まえ、食を通じた個人の行動改善と社会全体の連携を強化し、全ての市民が健やかで心豊かに暮らせる持続可能な社会の実現を目指します。

## アンケートからみられる裾野市の状況

### (1) 就寝前に自分で歯みがきをしない幼稚園・保育園年長児

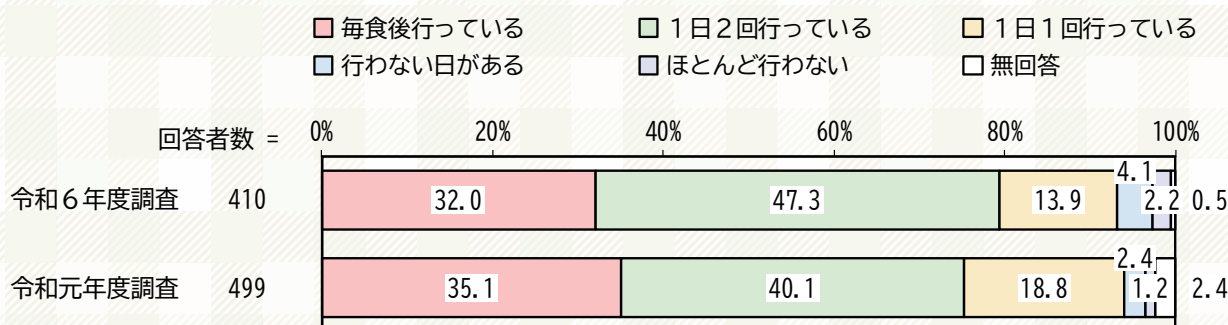
昨夜、お子さんは寝る前に自分で歯磨きをしましたかについて、「はい」が85.4%、「いいえ」が14.6%となっています。令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



資料：令和元年度 生活習慣等に関するアンケート調査  
令和6年度 生活習慣等に関するアンケート調査

### (2) 毎食後に歯や口の手入れをしている人

毎食後に歯磨きや義歯の清掃など、歯や口の手入れをしていますかについて、「1日2回行っている」が47.3%と最も高く、次いで「毎食後行っている」が32.0%、「1日1回行っている」が13.9%となっています。



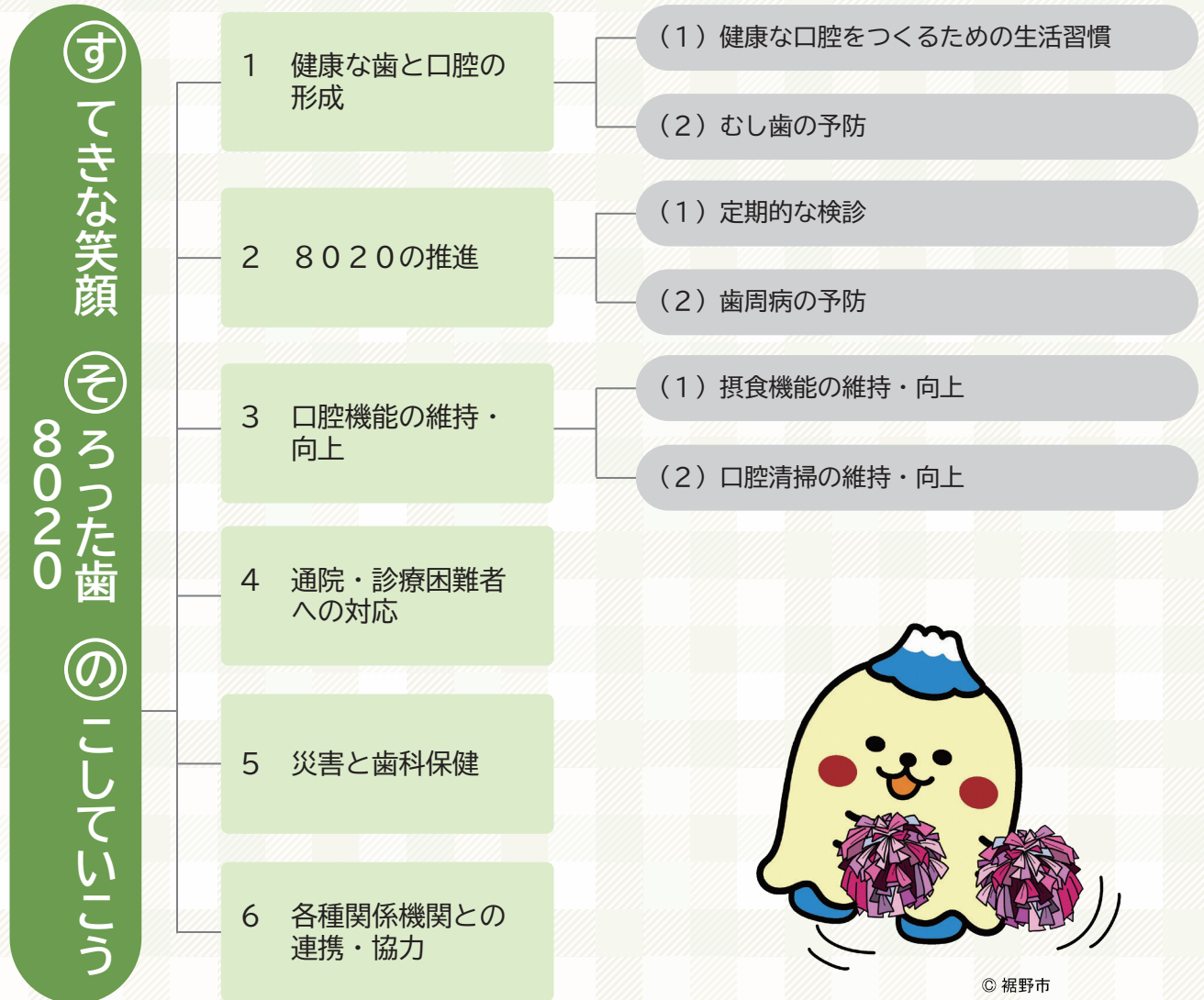
資料：令和元年度 生活習慣等に関するアンケート調査  
令和6年度 生活習慣等に関するアンケート調査

## 計画の体系及び重点取り組み

第2次裾野市歯科保健計画は、6つの基本方針と5つの重点取り組みに基づき、基本理念「**す**てきな笑顔 **そ**ろった歯 **の**こしていこう 8020」の実現を目指し、歯や口腔の健康づくりに関する施策を総合的に展開しています。

[ 基本理念 ]

[ 基本方針 ]



### 重点取り組み

① 歯間部清掃用具使用率の向上	個人の口腔状況にあった口腔清掃が実施できるよう、きめ細かな指導・支援を行います。 また、歯間部清掃用具の正しい使用方法について指導していきます。
② 定期的な歯科検診の推進	1年に1回以上かかりつけ歯科医による定期的な歯科検診の受診を推進するとともに、妊婦歯科疾患検診及び成人歯周疾患検診の受診者の増加を図ります。
③ 8020推進員の養成と育成	8020推進員を定期的に養成し、知識や技術向上のための研修を実施することで、推進員の育成と活動の充実を目指します。
④ 歯周病予防の推進	よく噛むことや適切な口腔清掃で歯周病を予防します。 歯周病予防と生活習慣病予防の関係性、特に、喫煙者の歯周病治療には禁煙が重要であるという認識を広め、歯周病予防を推進していきます。
⑤ オーラルフレイル（口腔の衰え）の予防	「オーラルフレイル」（口腔の衰え）という新たな考え方を加え、健康寿命の延伸を目指します。

# 歯と口腔の健康づくりの具体的な取り組み

## (1) 健康な歯と口腔の形成

### 目指す姿

規則正しい生活習慣、  
バランスのとれた食事によって、  
健康な歯と口腔をつくります

### 現状と課題

アンケート調査結果では、就寝前に自分で歯磨きをしない年長幼児が約1割となっています。また、年長幼児の仕上げみがきをしない保護者は約2割となっています。

今後は、乳幼児健診や各種教室等の機会を通じて、市民に仕上げみがきの重要性を周知啓発するとともに、歯や口腔の手入れの方法についての具体的な手技を指導していく必要があります。

### 今後の方向性

1 健康な歯と口腔をつくるため、正しい食事や生活習慣の実践を推進し、早寝早起きや適度な身体活動を取り入れる生活リズムの整備を図っていきます。

3 指標の評価を踏まえ、子ども自身による正しい歯みがきの定着や、保護者による仕上げみがきの指導をさらに充実させる方向で取り組んでいきます。

2 むし歯予防のため、歯みがき習慣やフッ化物利用、歯間部清掃用具の活用を促進するとともに、妊娠期から学童期、成人期、高齢期まで各段階に応じた定期検診と指導の体制を強化していきます。

4 各種健診、講話、指導アドバイスにおいては、感染対策を十分に講じながら実技指導や啓発活動の内容、方法、時期についても見直し、より効果的な支援を進めていきます。



## (2) 8020の推進

### 目指す姿

毎食後に歯や口腔の手入れを行うと共に、定期検診を受け、  
歯周病による歯の喪失を防ぎます

### 現状と課題

アンケート調査結果では、過去1年間に歯科の治療・検診・指導を受けたかについて、何も受けていない人が約4割と最も高くなっており、歯間部清掃用具を使用していない人は約4割となっています。また、歯周病と生活習慣病（糖尿病、心臓病等）が互いに影響することを知らない人は、約3割となっており、喫煙が歯周病に影響を知っている人は約3割となっています。

歯科医師会や歯科衛生士会等と連携しながら、セルフケアの推進やかかりつけ歯科医を定期的に受診することの必要性を普及啓発することが必要です。

また、歯周病と生活習慣病や喫煙の関連性等、歯周病の知識を市民に周知する必要もあります。

### 今後の方向性

1 かかりつけ歯科医による検診を含めた成人歯周疾患検診や妊婦歯科疾患検診の受診促進をさらに強化していきます。

2 定期的な歯の検診受診率の改善に向け、治療以外の予防検診の重要性を地域住民に啓発していきます。

3 栄養バランスのとれた食事、質の良い睡眠、適度な運動、禁煙による免疫力向上を図る生活習慣の改善を促進していきます。

4 歯周病と生活習慣病の関連性や喫煙の影響、歯間部清掃用具の使用の効果についての情報発信を強化し、健康意識のさらなる向上を目指していきます。

5 イベントや店頭での啓発活動などの取り組みを柔軟に見直し、引き続き推進します。



### (3) 口腔機能の維持・向上

#### 目指す姿

「オーラルフレイル」(口腔の衰え)を招かないよう、口腔機能の維持・向上を図ります

#### 現状と課題

アンケート調査結果では、毎食後に歯や口の手入れをしている人が約3割となっています。また、歯の状態について、一部噛めない食べ物があると答えた人が約1割となっており、20歳代から70歳代以上にかけて高くなる傾向があります。引き続き毎食後の口腔ケアを推奨していくとともに、歯科医院での定期的な清掃も行うように促す必要があります。

なお、高齢期における口腔機能低下の予防・改善に向けて、市による口腔機能の維持・向上の支援活動を推進することも必要です。



© 裾野市

#### 今後の方向性

- 1 引き続き、唾液腺マッサージや舌体操の普及を通じて、摂食機能の維持・向上を目指していきます。
- 2 かかりつけ歯科医の指導を中心に、個人に合った義歯作成・装着の取り組みをさらに充実させ、高齢者のADL(日常動作・日常生活を送るために必要最低限の基本的な動作)やQOL(生活の質)の向上に寄与していきます。
- 3 毎日の口腔ケアおよび定期的な歯科医院での清掃の重要性を啓発し、口腔内の衛生管理を徹底していきます。
- 4 出前講座や口腔健康相談の場を拡充し、市民の健康意識の向上と相談希望者のさらなる増加を図っていきます。

### (4) 通院・診療困難者への対応

#### 目指す姿

どのような健康状態・身体状況であっても、自分自身で、または介助者の支援を受けて歯と口腔の健康づくりに努めます

#### 現状と課題

本人や家族の相談対応や、通院が困難な要介護者等に必要に応じて歯科訪問診療に対応できる歯科医療機関の情報提供等を行っていく必要があります。また、障害のある方への定期的な歯科検診や歯科保健指導を実施するとともに、かかりつけ歯科医をもつことの重要性について周知啓発を進めることも必要です。

#### 今後の方向性

- 1 自身や介助者による口腔ケアの支援に向けた相談体制を、引き続き充実させていきます。
- 2 歯科医師会、県、各施設等の関係機関との連携をさらに強化し、必要な歯科医療が受けられる体制を整備していきます。
- 3 介護サービス連携会議や地域調整会議を活用して、今後の取り組みにおける情報共有と連携を推進していきます。
- 4 成人訪問において、歯科医師会との連携により、希望者が訪問診療を受けられるようつなぐ体制を整備していきます。

## (5) 災害と歯科保健

### 目指す姿

日頃から災害時を想定した備えを行い、平常時と同様に口腔のケアが行えるようにします  
また、誤嚥性肺炎等を防ぎます

### 現状と課題

歯科医師会等と連携しながら、災害時における歯科口腔保健の重要性について市民に普及啓発することが必要です。

### 今後の方向性

- 1 災害時に備えた口腔ケア用品の整備をさらに推進し、平常時と同等の口腔ケアが継続できる体制を充実していきます。
- 2 医療救護体制意見交換会や救護所開設運営訓練には歯科医師にも引き続きご参加いただき、災害時における歯科の視点から意見や助言をいただくことで、関係機関との連携と情報共有の充実を図っていきます。
- 3 救護所開設運営訓練および災害医療講演会では、災害時に必要となる口腔ケアなどの歯科保健に関する啓発をいただき、医科・歯科が協力した災害時体制づくりを進めます。
- 4 歯科医師会や地区組織と連携して出前講座等を活用し、災害時も口腔ケアの重要性を市民に周知し、実践できる環境づくりを推進していきます。

## (6) 各種関係機関との連携・協力

### 目指す姿

地域で行う歯と口腔の健康づくりについてのイベント等へ積極的に参加し、意識を高めます

### 現状と課題

アンケート調査結果では、「8020運動」を知らない人は28.0%となっています。今後も引き続き、8020運動を普及啓発する必要があります。特に8020推進員の認知度が低い中高年層へのアプローチが重要です。

### 今後の方向性

- 1 引き続き、8020推進員をはじめとする地区組織や関係機関との連携を深化させ、8020運動の周知と認知度向上を目指していきます。
- 2 8020推進員養成講座や8020推進員の会において、若い世代のボランティアの育成を強化し、次世代の歯科保健推進リーダーを育てていきます。
- 3 イベント、健康と歯のフェスティバル、出前講座などの啓発活動をさらに充実させ、地域住民の口腔健康意識の向上に努めていきます。
- 4 裾野市住民歯科保健推進会議や歯科保健会議を活用し、関係機関との意見交換を継続するとともに、より円滑な歯科保健活動の実施体制を構築していきます。
- 5 4歳児口腔衛生指導については、保護者や教育機関と連携を深め、子どもたちの早期からの口腔健康習慣の定着を推進していきます。



## 数値目標の評価

本計画では、施策・事業の展開に対応した数値目標を設定して、計画を推進してきました。今回の中間評価では、策定時の値から中間現状値（令和6年度）への推移や、目標値との達成状況に基づき、以下の4段階（◎：目標値を達成している ○：目標は達成していないが改善した △：変化がない ×：悪化している）で判定し、一元的に評価しました。

指標	対象者	策定当初値 (令和元年度)	中間現状値 (令和6年度)	目標値 (令和13年度)	評価
自分で歯みがきをした子どもの増加	年長児	87.7%	85.4%	95%	×
仕上げみがきをする保護者の増加	年長児の 保護者	82.2%	84.0%	90%	○
むし歯を経験した幼児の減少	年長児	30.9%	19.0%	20%以下	◎
妊婦歯科疾患検診受診率の増加	妊婦	40.4%	45.5%	50%	○
成人歯周疾患検診受診率の増加（36・38・40・42・44・46・48・50・55・60・65・70歳）		9.0%	9.1%	10%	○
治療以外で1年に1回以上定期的な歯の検診を受けている人の増加	20歳以上	40.7%	35.6%	50%	×
歯周病と生活習慣病の関連性の認知度の増加	20歳以上	67.5%	72.7%	75%	○
喫煙が歯周病に影響することの認知度の増加	20歳以上	25.9%	27.3%	35%	○
歯間部清掃用具の使用率の増加	20歳以上	53.1%	57.8%	60%	○
8020運動の認知度の増加		69.9%	71.2%	80%	○
8020推進員の人数の増加		37人	53人	40人	◎
8020の該当者の増加 (健康と歯のフェスティバル表彰者)		52人	65人	60人	◎

### 第2次裾野市歯科保健計画 中間評価（概要版）

令和8年3月